

アマルフィ海岸

近藤 節 夫

つい最近世界遺産「アマルフィ」を舞台にした映画が公開され、いやがうえにもイタリア南部のアマルフィ海岸の名が日本でも知られるようになった。そもそもヨーロッパでは、海運国家としてその名は古来より伝えられ、また知る人ぞ知る断崖上の街と沿岸の絶景を恣にできる景勝の地として広く知られていた。

アマルフィ海岸の絶景は世界でいかなる海岸も及ばぬ美しさで、一度訪れたら生涯忘れられないほど人びとを虜にしてしまう。美しい海岸としては、南仏ニース、コスタ・デル・ソル、マイアミ、ワイキキやアカプルコなどが世界的に知られているが、それらはビーチの静的な美であり、躍動感をパンチで訴えるダイナミックな美しさではない。

それに比べて、中世イタリアの海運国家としてベネチアと覇権争いをしていたアマルフィには、国家建設や都市作りの面でも、また狭い路地裏にも力強い人びとの生活感のある匂いと熱気が沁み込まれ、今なお往時のエネルギーを肌で感じ取ることができる。

それに加えてアマルフィ海岸は、ティラニア湾に臨むソレント半島南岸沿い 30 kmに亘って、素晴らしい海岸美を見せてくれる。おとぎの国のような小さな集落をいくつか通り抜け、断崖上に固まったパステルカラーのマッチ箱のような家々が、急斜面の土手にへばりつくように取り付いているランドスケープは、眼下に見下ろす荒々しい紺青の海とのコントラストの妙もあり、まさにメルヘンの世界と呼べる桃源郷である。

これまで、旅程にとかく制約のあった忙しい日本人観光客がアマルフィを訪れることは少なかった。近年になってスケジュールにゆとりができるようになると、ナポリとポンペイ観光から一歩踏み出し、ソレントとカプリ島を訪れるまでになった。それからさらに足を伸ばすことによって、アマルフィが射程圏内に入ってきた。世界中から観光客がどっと押し寄せた結果、ピーク・シーズンの交通混雑は頂点に達して、片道一車線の道路はいずれ規制されて行きにくくなるだろう。訪れるなら今のうちがチャンスかも知れない。

アマルフィという街の行政区には、ノルマン洋式の大聖堂と鐘楼の大きな目玉があり、さらに狭い路地を潜り抜け、漂う歴史と文化の香を身体で感じ取ることができる。

しかし、何と言ってもアマルフィの魅力は海岸沿いの街道筋の町並みと、くねくね曲がる道路上から眺める美しい海洋の景色だろう。

世界遺産「アマルフィ」こそ、世界で最も美しい海岸と呼んで決して過言ではない。

(※前号でドレスデンの世界遺産登録抹消を紹介しましたが、今夏の委員会で登録抹消は1年間猶予され、今後ドレスデン市の対応を見て改めて登録抹消の賛否が決定されます)